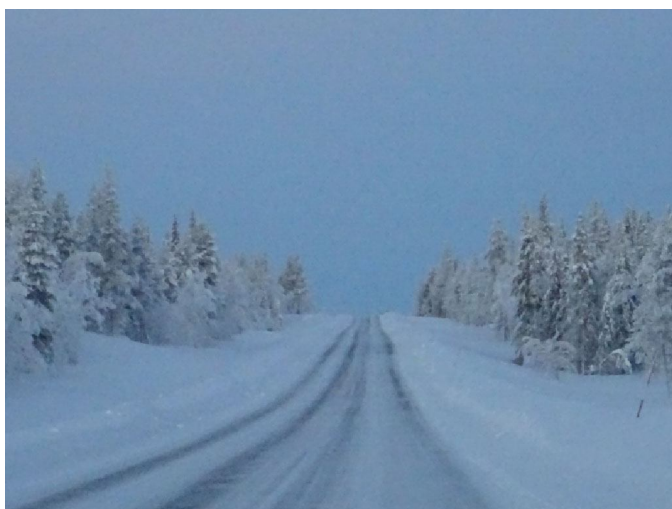


北極圏旅行記 2017-2018 冬 (14)

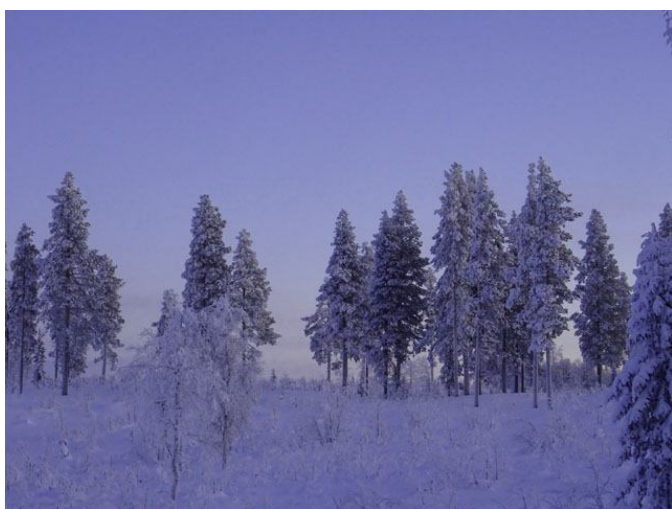
～12/31 ユッカスヤルビへの道～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

大晦日にユッカスヤルビに出かけることにした。宿泊地のマスグンス村からユッカスまでは、片道約80kmほどである。冬の北極圏の「昼」は短い。昼といっても太陽は昇らないので、少し明るくなるだけだ。その「少しでも明るい時間帯」に行動する必要がある。それはせいぜい4～5時間だけだ。

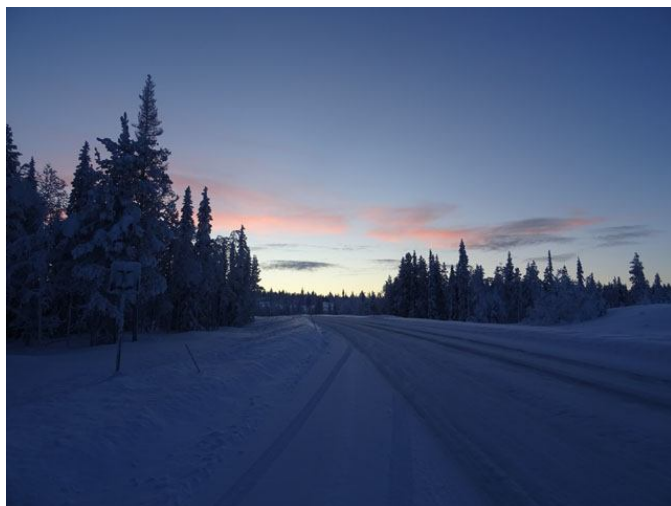


こんな「凍った黎明の道」が延々と続く。制限速度は90km/hなのだが、路面がカチカチに凍っているので、舗装道路のように滑らない。しかもレンタカーはスパイクタイヤ装備なので、90km/hで走っても安全。



(2ページ目に拡大写真)

丘の針葉樹が美しい。車を停めて撮影した。その間わずか数分でも、体中が冷え切ってしまう。急いで車に戻ると、今度はメガネが曇る。



(2ページ目に拡大写真)

南側を振り返ると、美しい空。朝焼けとも夕焼けともつかない空だが、実際にその両方を「兼務」している。朝焼けがそのまま夕焼けになってしまうのだ。



はるか遠くに、煙突と煙が見えた。スバツパバーラ(Svappavaara) 鉱山の精錬所だ。



この旅行では、不思議なことに今までトナカイに一回も出会わなかった。しかし国道45号線に入って、車と並走するトナカイにやっと出会えた。一気に抜くのは危険。急に右に出て来ることがあるのだ。ゆっくり同じ速さで、脇を通り過ぎるのが無難である。

